

住宅用火災警報器が鳴ってしまったら

まずは周囲の状況を確認しましょう

異常を感知した警報器の周囲の状況を確認してください。
煙や炎、臭いなどの異常が見当たらない場合は、警報器の誤作動が考えられます。

【警報器の誤作動の例】

- ・調理の際に発生した煙や蒸気に反応してしまった
- ・スプレー式殺虫剤やくん煙式殺虫剤などに反応してしまった



【警報器の誤作動の場合の対処方法】

- 1 本体の押しボタンを押すか、引き紐を引いて、警報音を一時的に停止させます
- 2 室内をよく換気して、警報器の周りから煙などを取り除いてください
煙などが残っていると、数分後に再び警報が鳴り始めます

大声で火災の発生を知らせましょう

火災の状況を家族や周囲の人に大声で知らせてください。
また、素早い避難行動が取りにくい障害者や高齢者、乳幼児などは、直ちに安全な場所に避難させてください。

無理のない範囲で初期消火を行いましょう

初期消火を実行する限界（目安）は、炎が天井に届くまでとされています。
身の回りのものを使用して、家族や周囲の人と協力しながら消火を行ってください。
（万が一の時のために、消火器を備え付けておくことをおすすめします）
ただし、うまく消火できずに炎が天井にまで達してしまった場合は、直ちに安全な場所に避難してください

【消火器について】

消火器は、会社や工場などでは備え付ける義務があり、定期的に点検する義務もありますが、一般の住宅では義務はありません。個人が任意で購入して備え付け、個人の責任で管理することになっています。

しかし、消火器は火事になったときには、初期消火に最も効果的なものとなります。安全、安心のためにも、消火器を備え付けておくことをおすすめします。

【消火器の種類】

一般の住宅に備え付ける消火器は、「白、黄、青」の印がすべて付いているタイプがおすすめです。

また、比較的体力のない高齢者等が使用する場合は、スプレータイプの消火器（正式にはエアゾール式簡易消火具）が便利です。

いずれも、警報器と同様にNSマークが付いている商品が安心です。

【消火器の使い方】

安全ピンを抜く ホースや本体の吹き出し口を火元に向ける
レバーを強く握る

素早く避難しましょう

避難する時には、服装や持ち物にこだわらずに、一刻も早く安全な場所に避難してください。

避難時に持ち出したい大切なものは、普段から置き場所を決めておき、避難する際にすぐに持ち出せるようにしておきましょう。

避難時の姿勢はできるだけ低くし、ぬれタオルなどを口元に当てるなど、できるだけ煙を吸わないようにしながら避難してください。

また、一度避難したら、絶対に戻らないようにしてください。

安全なところから119番通報しましょう

119番通報は安全なところから行ってください。

家族や周囲の人の手助けがある場合は、なるべく早い段階で119番通報を行ってください。